

体研連 さっぽろ



札幌市学校体育研究連盟

令和6年 9月5日 第199号

編集:編集部

札幌市立開成小学校

発行:事務局

札幌市立澄川南小学校

文責:佐藤 祥(平岸高台小学校)

2学期から試したい!
体育の授業づくりに楽しい!

夏季実技研修

今年度も『小学校体育指導法実技研修会』が7月29日(月)に澄川南小学校の体育館で行われました。あいにくの雨模様でしたが、今年も連盟会員ではない先生方にも多数の参加をいただき、「熱い研修会!」になりました。今回の研修会は、「器械運動(マット運動 and 跳び箱運動)」「体育の幹」「表現運動」の3つをグループごとにローテーションしながら、低・中・高学年それぞれの授業に使える技やポイントを教えていただきました。

今回の研修会での学びを、各校の実践ですぐにでも役立てていただければと思います。研究部のみなさん、お手伝いしていただいた会員のみなさん、御準備・運営などありがとうございました。



体育の幹

安全面の指導
準備活動
小中接続の視点から
学習の見通し

「小中接続」の視点として、中学校とのつながりを意識した指導を行う際には、**単純化しすぎる**ことのない**単元構成**で行うことが大切です。

また、それぞれの**運動の「特性」**を十分に理解した上で、子どもの思考の流れにそった学習過程にすることで、「学習の見通し」をもつことができるとともに、より質の高い学びを促進し、子どもたちが主体的に学習に取り組む姿勢が育まれます。



器械運動

技能の定着を目指すためには、**多様な活動**場面の設定が重要です。足が開かないようにするために、**紅白玉をはさむ**等各技能に応じたレベルの場を工夫することで、児童は自分の能力や課題に合わせた場を選択することができます。児童が安心して、チャレンジできる学習環境を整えることが、主体的に探究するために大切です。



表現運動

表現運動においては、「楽しむ」ことが大切な要素です。さらに、「表現」では、変化や起伏のある題材を選び、それを基に**三部構成**で表現する方法を考えることが重要です。様々な動きを組み合わせる中で、どうすれば効果的な表現ができるかを考え、実際に動いてお互いの動きを見合いながら、思考を再構築していくことが求められます。こうした過程を通じて、表現の多様性を学び、自らの表現力を高めることができます。



研修会での学びを2学期からの体育の授業に生かしていきましょう!